

湊江小学校 外国語・外国語活動研究通信

第5号

令和2年10月

今年度5回目になる外国語・外国語活動研究の授業を馬場梢教諭が行いました。前回に引き続き、体育館にて授業を、その後、ランチルーム教室にて協議会が開かれ、授業で用いた活動、振り返りカードの活用、評価等について活発な意見交流を行いました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:4組 (特別支援学級2~6年 16名) 担任 馬場 梢教諭
単元名:Unit 4 I like blue. 好きなものを伝えよう
〈授業の様子・板書〉



協議会では、研究経過報告と本時についての馬場教諭の自評があり、協議へと続きました。

〈研究経過報告〉

本学級の児童は学年を問わず発達段階が様々であり、得意なこと苦手なことも児童によって大きく異なる。外国語活動に関しては、6年生は3年目となるが、2~5年生は初めての経験であり、はずかしがる児童も多い。毎日日直の仕事の中に英語での挨拶を取り入れて活動してきた。

・表現を繰り返し使うための工夫

初めて扱う英語表現については、歌やチャンツで繰り返すことで、言語材料を増やししながら表現に慣れ親しめるようにした。また、児童が会話やゲームに取り組む前にデモンストレーションを行うことで、学習活動への意欲を喚起し、安心して楽しく活動に取り組めるようにした。

・スモールステップでの学習計画の工夫

活動の最終目標を友達と自己紹介することとし、「教師の手本を見る」「友達の手本を見る」「教師と一緒にやってみる」「友達と一緒にやってみる」など、実態に合わせた方法で活動内容を工夫し、段階を踏んで取り組めるようにした。“Do you like ~?” “Yes, I do./No, I don't.”に慣れ親しませるための活動については、チャンツの他に、サイコロゲームを取り入れた。サイコロゲームを活用した理由は、一人一人がチャレンジする時間を十分に確保し、同時に自分のテンポで進めることができる安心感を大切にしたいからである。加えて、外国語活動が苦手な児童もサイコロを振ることに楽しんで参加できるのではないかと考えたからである。また、グループの人数を8人に設定することで、友達の発言を十分に聞

き、手本とすることができるよう配慮した。

・振り返りカードの工夫

学習・体験の目標(めあて)を設定し、授業の最後に、振り返りカードへの記入を通して、自分の活動内容や心の動きを振り返り、児童に達成感をもたせることができるようにした。「むずかしい」を選んだ児童に対しては、その理由を尋ね、対話の中から児童の考えや思い、気づきなどを引き出すよう支援した。

〈授業者自評〉

- ・前時までの学習でレインボーソングの定着が難しかったので、本時では歌に出てくる順に色を配置した掲示物を作成し、活用した。
- ・6年生は、TGGを控えており、外国の方に自己紹介ができるように繰り返し自分たちで言える活動を設定した。
- ・教材になるべく手をかけないでだれがやってもできる授業を目指した。
- ・異学年同士で教え合うことがよかった。さいころの☆、ジャンルを問わず好きなことが言える目の数が一つではなくもっとなってもよかった。そうすれば自分の伝えたいことがもっと言えたと思う。

〈研究協議〉◎良かった点 ▲課題点 □質問

レインボーソングについて

◎好きな色の画用紙を選び、歌に合わせて自分の色の歌詞の時に画用紙を上挙げて歌っているのがよかった。

さいころゲームについて

- ◎何が出るかという楽しみがあった。
- ◎お互いの様子をよく見ることができ、ジェスチャーも大きく使っていてよかった。
- ◎円になっての活動でペアでのやりとりを何回も聞くことができてよかった。2周目もできてよかった。子供のやりとりが楽しそうだった。
- ◎上級生が下級生にフレーズを教える場面があり、異学年で学ぶよさがあった。
- ◎めあて「伝わるように工夫」を共通認識していた。
- ▲チャンツのリズムが少し速いと感じた。→速いと感じていたので、実際は再生スピードを落としていた。
- ▲サイコロの目が出た時に発音していた子がいたので、全員で発音すると言葉の練習になると思う。
- ▲色さいころ、果物さいころなどさいころの種類を増やしてもよかった。
- 7、8時間目の学習が一緒の意図とは？
→児童に活動の見通しをもたせ、主体的に動くことができるよう、同じ流れを2回設定した。

〈指導・講評〉

◎授業について

指導主事より

□活動がゴールではない。学習指導要領を意識して学習のゴールを意識しながら、授業と評価の一体化を図っていきたい。

外部講師より

レインボーソングについて、皆がジェスチャーを使うということは、特別支援の児童にとっては大切なことだと思う。児童はうまく歌えていた。教科書にはとてもたくさんの単語が出てくるが、少しずつ導入していくとバランスのよいさいころゲームになるのではないかと。1周目で終わらせず、2周目続けたのはよかった。

全員が完璧にできなかったとしても、1回聞いて語彙・構文に慣れ親しんでいくことが大切である。一つのパターンが出来たら少しずつ学習内容を変えていくとよい。先生の口調がゆったりしていて、安心して学習に取り組めたのではないかと。雰囲気もよく子供たちも楽しんでいた。

◎言語活動の具体例について

英語の歌を聞き取り、類似の内容の歌詞を作る自己表現に挑戦しました。児童に用いる場合は学年によって歌詞を作る範囲を加減するなどして難易度を変えるとよい。